

# 「令和2年度（2020年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果における障害学生数の減少等について

## 障害学生修学支援実態調査・分析協力者会議 所見

独立行政法人 日本学生支援機構（以下「JASSO」という）は、全国の大学、短期大学及び高等専門学校を対象に、障害のある学生（以下「障害学生」という）の修学支援に関する実態調査を実施し、令和3年8月31日に結果報告書を公表しました。

URL : [https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_shogai\\_syugaku/2020.html](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/2020.html)

令和2年度調査において障害学生数等が減少していることについては、公表時のプレスリリースに「コロナ禍のためオンライン授業の実施等により学生が通学しなかった場合もあったため、大学等によっては、障害学生の把握が十分にできなかった状況もあることによるものと推測される」とありますが、ここに改めて障害学生修学支援実態調査・分析協力者会議の立場から、令和2年度調査におけるいくつかの特徴的な変化についてお伝えいたします。なお以下の推測は実態調査の結果や回答の自由記述欄に記載された各大学の状況などから行っていますが、原因等を確定的に主張するものではありません。

### 1. 障害学生数減少の要因について

令和2年度に障害学生の把握が十分にできなかったと推測する要因の一つとして、多くの大学等において健康診断の実施が遅れたことが考えられます。令和2年度の障害学生数を障害種別に見ると最も減少が大きいのは病弱・虚弱 10,720人（前年度から1,654人減）で、例年、健康診断時に把握していた障害学生の把握が遅れたこととの関連が推測されます。肢体不自由 1,901人（同490人減）の減少は、オンライン授業実施により通学の必要が生じなかったことで、支援ニーズが発生せず申し出がなかった可能性が推測されます。また、調査回答の自由記述欄に複数の大学等からご報告いただいた要因として、登校制限により新入生の障害の把握が難しかったことが挙げられています。

### 2. 支援障害学生数の増加について

障害学生数は35,341人で前年度から2,306人減少しているにも関わらず、支援障害学生数（障害学生のうち学校が支援している学生数）は18,777人で前年度より75人増加していることは注目に値します。障害学生の把握が難しかった一方で、オンライン授業の実施等による新たな支援ニーズが発生し、支援障害学生数に一定の影響を与えていたのではないかと考えられます。特に、障害種別の支援率では、視覚障害（6.3%増）、病弱・虚弱（6.2%増）、聴覚・言語障害（5.9%増）の支援率が増加しています。病弱・虚弱については学生数の変化による相対的な変化を考慮すべきですが、視覚障害及び聴覚・言語障害については、オンライン授業の実施等が支援ニーズの増加につながった可能性もあり、今後の推移に留意すべきと考えます。

### 3. 障害学生数、支援障害学生数の今後の動向について

上記のように、令和2年度調査結果における学生数の変動は、コロナ禍による登校制限等という特殊な状況の影響が大きいものと思われる。このため本会議としては、令和2年度調査時点での障害学生数の変動については、今後も引き続き観察を続けることが望ましいと考えます。またコロナ禍の継続によって変動した学習環境とそれらが生み出した支援ニーズの動向についても、本年度以降の調査結果を注意深く見守っていく必要があると考えています。

令和3年10月26日  
障害学生修学支援実態調査・分析協力者会議議長  
名川 勝

【お問合せ】独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）学生生活部障害学生支援課／井上・茄子川  
TEL : 03-5520-6176 FAX : 03-5520-6051 E-mail : shienka02@jasso.go.jp  
URL : <https://www.jasso.go.jp/>